

漢方トゥデイ

2022年7月21日放送

使ってみよう歯科口腔領域と漢方⑧

各論: 食欲不振に補中益気湯/十全大補湯、疼痛(神経痛)に葛根湯、筋肉・関節痛(顎関節症)に芍薬甘草湯

東京大学大学院 医学系研究科 イートロス医学講座

特任准教授 **米永一理**

(2024年4月より 日本大学歯学部 摂食機能療法学講座 主任教授)

第7回の『歯痛、抜歯後疼痛に立効散、化膿症に排膿散及湯』は如何だったでしょうか。私の担当致します漢方トゥデイでは、漢方初学者の方向けに、歯科口腔領域の漢方薬を使えるようになることを目的としてお話をしております。第1回から第4回が総論、第5回から第8回が各論を予定しています。

各論では、薬価基準による歯科関係薬剤点数表に記載されている11種類の漢方薬を中心に解説しています。

各論の4回目として『食欲不振に補中益気湯/十全大補湯、疼痛・神経痛に葛根湯、筋肉・関節痛・顎関節症に芍薬甘草湯』と題し、お届けします。

ではさっそく補中益気湯についてです。

補中益気湯は、医科でも処方数の多い漢方薬の一つです。補中益気湯は、何かが足りない時に補ってくれる補剤の代表です。イメージとしては、漢方薬の栄養ドリンク剤みたいなものです。少しだるいけどもうちょっと頑張りたいな、風邪ひきたくないな、みたいな時に使用すると良いです。一方栄養ドリンク剤とは違ってカフェインは入っておらず、無理やり体を覚醒させるのではなく、あくまで免疫を高めて体の調子を整えるので、内服後暫くするとどっと疲れがくることもありません。また免疫を高める機序として、消化管運動を整えることによることもあり、食欲不振の場合にも使用することができます。医師の中にも毎日飲んでいる先生も見

かけ、使用しやすい漢方薬であると感じています。基本的な内服方法は、1日3回食前ですが、元気づけに1日1回朝仕事前に内服するだけで調子が良いと言われる方もいます。ただし、あくまで補中益気湯は、悪くなる前からやや悪くなった時にしか効きません。寝込んだりするような状態になった場合は、次の十全大補湯などの使用を考慮します。

ここからは十全大補湯についてです。

十全大補湯は、ガクンと体力が落ちてしまった時に使用する漢方薬です。特に術後やがんなどで体力が消耗してしまっている方に使用を考慮します。ただし、発熱しているなどの急性期には使用できません。歯科では、口腔がんの術後に加え、体力が落ちてきた高齢者で、食べられずに痩せてきた方などが投薬の対象となると思います。ただし、食欲を直接増す作用を期待する場合は、六君子湯などの方がよく、十全大補湯はあくまで、免疫を高めることで間接的に食欲を増すイメージです。また、免疫を高めるためには、短期間での投与では効果ははっきりせず、副作用がなければ、月単位で比較的長期に内服してもらうのが良いです。また、免疫効果を期待して、がんの再発が心配な方に投与することもあります。ただし、十全大補湯はもともとが比較的しっかりした方に対する反応が良いです。よって、比較的華奢な方は、人参養栄湯を使用します。特に貧血に対する造血作用や、精神安定作用も期待でき、十全大補湯に比べマイルドな反応を示すため、こちらを処方することも多いです。

次に葛根湯についてです。

葛根湯は、皆さんにとっても馴染みのある漢方薬かと思います。以前テレビコマーシャルで、「風邪には葛根湯」と流れたことから、風邪薬の漢方薬として認知されている先生も多いかと思えます。しかし、漢方薬をよく処方する医師は、葛根湯を急性の炎症である風邪に処方することは基本的にありません。なぜなら、葛根湯は、上半身の末梢血流を良くすることで、抗炎症、抗アレルギー作用を示しますが、この血の流れを良くする働きは急性炎症などに対応できるほどではないからです。よって、葛根湯は、肩こりなどの上半身の血流障害からくる筋肉や神経障害などに処方される薬です。風邪で使うとしたら、風邪をひきそうだから、予め飲んでおこうかなというような場合などが適応となります。なお、なんでもかんでも葛根湯を処方する医者のことを、葛根湯医と言い、藪医者 of 代名詞として用いることがありますが、病気に炎症が関与していることを加味して、抗炎症作用を期待して葛根湯を処方しているのであれば、大きな間違いとまでは言えないかもしれません。

また、良く疼痛の急性期には冷シップを、慢性期になったら温シップを使用しますが、漫然と痛いからとひたすらNSAIDsで、末梢を冷やし続けると血流障害を起こし、逆に疼痛が増悪することとなります。よって、慢性疼痛には血流を改善しやや温めてくれる葛根湯などの漢方薬が適応となるわけです。つまり、葛根湯は、マッサージをしたくなるような症例、温シップを使いたくなるような症例がよい適応になります。よって、I型顎関節症も適応となります。顎関節症に用いる場合は、1日3回食前に内服すれば、1週間程で効果がみられます。もし、それでも全く改善しない場合は、作戦を変更した方が良いです。

葛根湯のポイントは、上半身にしか効かないことですが、上半身であればいろいろな症状に効くとも言えます。例えば、母乳の出を良くすることなども知られています。なお、今まで歯科の保険収載薬として、副作用として特に注意が必要なのは甘草を含むものだけでしたが、葛根湯は、甘草に加え、麻黄が含まれていることも注意事項です。そして急性顎関節症Ⅰ型などの筋肉痛には、次の芍薬甘草湯と合わせると良いです。

ではさいごに芍薬甘草湯についてです。

芍薬甘草湯は、ゴルフや、テニス、マラソン、山登りなどスポーツをする方は馴染みの深い漢方薬ではないでしょうか。よく漢方薬はゆっくりと効くと思われることが多いですが、芍薬甘草湯は特に速効で効く漢方薬の一つです。所謂こむら返りがよい適応で、足がつったとき、またはつりそうな時に飲むと5分程でうそのように回復することを期待できます。ここでのポイントも、急性期は2包内服することです。加えて、予め運動する前に内服してからプレイすると、つりにくくなります。

またスポーツとは関係なく、高齢になると、夜間にこむら返りの症状が出て、困っている方も多いです。そのような時は寝る前に予め飲んでもらうことと、夜間発症すれば、すぐに飲むように枕元に芍薬甘草湯と水を置いて寝ることをお勧めしています。

この他にも横紋筋、平滑筋いずれでも、筋肉全般の緊張を速効で解除してくれるため、筋性の開口障害だけでなく、唾石・尿管結石・胆管結石や、月経痛、しゃっくり、破傷風など筋肉がギュッと締め付けるもの全般に使用を考慮することができます。

そして、芍薬甘草湯は、葛根湯との相性が良いです。筋肉が急激に収縮した後は、筋肉の炎症を伴い、張りを感じるようになります。そこで葛根湯を合わせてあげると、その後の炎症を沈めることを期待することができるからです。

ではお時間のようです。

今回は、食欲不振、疼痛・神経痛、筋肉・関節痛・顎関節症に対する漢方薬を中心にお伝え致しました。いずれも医科でもよく処方される漢方薬であり、患者さんに喜んでもらえることが多いと感じています。本シリーズでは、続けてお聞き頂くことで、漢方薬の楽しさを感じて頂き、漢方を使って頂けるようになればと思います。

さて、本来であれば、今回で終了予定でしたが、大変うれしいことに多くの先生方から反響を頂いたため、あと2回ほど追加でお届けすることとなりました。次回は実践編として、『歯科口腔領域における証の考え方』を中心にお話しようと思います。